

049

## 自社体育館を一次避難所や津波避難ビルとして地域住民に開放

取組主体

株式会社フソウ

従業員数

想定災害

実施地域

687 人

全般

香川県

・災害時に、社屋（体育館）を一次避難所や津波避難ビルとして地域住民に開放することを想定し、体制・設備を整備している。地域防災に貢献するだけでなく、日頃からの地域コミュニケーション活性化も図る。

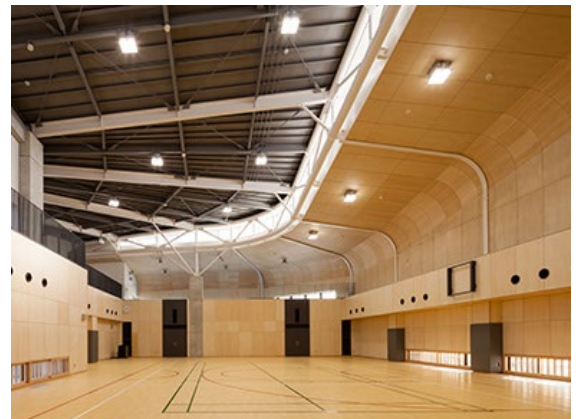
### 1 取組の特徴（はじめたきっかけ、狙い、効果、工夫した点、苦労した点）

#### 地域の防災拠点としての体制を整える「フソウテクノセンター」

- ・株式会社フソウは、「水と共に生きる」を企業理念に、水処理施設（浄水場等）の設計・施工から運用・管理、施設に必要な技術開発や資機材の製造から調達、販売に至るまで一貫して手掛けている。
- ・同社は、創業 70 周年を迎えた節目の年である 2016 年に、香川県高松市郷東町にフソウテクノセンターを開設した。同施設は、有事の際、備蓄庫を備えた体育館（1 階）を「一次避難所」、2 階を「津波避難ビル」として、地域住民に開放する。
- ・同社は、南海トラフ地震などの大規模災害を想定し、災害時にも地域に貢献できる体制づくりを進めている。例えば、24 時間のバックアップが可能な非常用発電機や飲料水 20t を確保した耐震性貯水槽を設置し、BCP 対策も考慮した機器を備えている。また、災害時に「かまど」として利用できるベンチも施設内に設置している。
- ・当施設は、平常時の環境配慮と非常時の事業継続を両立している。環境配慮の面では、自然採光による照明負荷低減やルーバーによる日射遮蔽、全館 LED 照明化、太陽光発電・風力発電・見える化モニター・EV 充電設備を備えるなど、省・創エネ設備を積極的に導入している。
- ・その他、主な対策として以下を行っている。
  - 災害時避難施設の機能として、杭には耐震杭を採用し、液状化対策をしている。
  - 浸水を想定し、電気設備を 3 階に設置。
  - 避難施設の他、活動拠点としても使用できるよう、大型車両が乗り入れられる舗装を採用している。
  - 避難所設備には、社員に加え、地域住民の方全員が避難する想定で備蓄を行っている。
  - 備蓄庫を設けた体育館は 1 階を一時避難所として開放し、150 名×3 日間の備蓄品を準備している。
  - 2 階は津波避難ビルとして、高松市と協定を締結している（1 m<sup>2</sup>/名として 200 名が避難可能）。



フソウテクノセンターの外観



避難所として開放される体育館



自社用、地域用対応の備蓄庫

## 国土強靱化

### 2 取組の平時における利活用の状況や効果

- ・地域住民に、同社が防災拠点であることを知ってもらうため、食堂や体育館を開放している。普段から食堂に来てもらうことで、有事の際にも、気兼ねなく避難してほしいという思いがある。食堂には、地域の高齢者や近隣企業の社員等も通い、地域のコミュニケーションの場になっている。



フソウテクノセンター内の食堂

### 3 現状の課題・今後の展開等

- ・フソウテクノセンターは、本格的な災害時の一般市民受け入れのための避難所開設訓練など、有事の際にしっかりと機能する体制づくりに磨きをかけている。同社の訓練では、住民の避難誘導訓練、耐震性貯水槽からの給水訓練、備蓄品の内容確認等を行っている。これからも地域の防災拠点として、引き続き運営体制の強化に努めていく。



避難所開設訓練の様子

### 4 周囲の声

- ・周辺の会社員はもちろん、一人暮らしのお年寄りの方によく食堂を利用いただいている。自治会のお年寄りからは一人で食べるより、若い子達と一緒に食べられるので嬉しいという声もいただいた。慢性的な運動施設不足解消のため、体育館の貸し出しも、非常に喜ばれている。（担当者に寄せられた地域住民の声）

#### 担当者の声

- ・四国で創業、発展してきた企業として、これからも地域の皆さまと共に防災対策に取り組み、安全で安心な暮らし作りに取り組んで参ります。

問合せ先	動画	サイト URL
株式会社フソウ 法人番号：9010001055694 TEL：03-6880-2123 FAX：03-6880-2229 E-Mail：koho@fuso-inc.co.jp	-	